

グリーンアリーナから元気を発信

2012グリーンアリーナニューイヤーイベント 新春神楽 1月2日(月) ・3日(火)



神々に奉納する神楽で
迎える新年
そこには感動があり
いきぶく源がある



2012年

1月2日(月)・3日(火)

■出演 2日(月)
宮乃木神楽団(広島市)
東山神楽団(北広島町)
琴庄神楽団(北広島町)

3日(火)
中川戸神楽団(北広島町)
大塚神楽団(北広島町)
上河内神楽団(安芸高田市)

※各団2演目ずつ上演(演目は裏面をご覧ください)

■入場料 (全席自由) 前売券 2,500円(税込) [当日券は500円増しとなります]
小・中学生 500円(税込) 未就学児無料
※イス席あり(約400席)

■時間 開場10:00 開演11:00 終了16:30予定

■場所 広島県立総合体育館 武道場

大アリーナで
同時開催!!

新春 人気のおわふわ26体が大集合!
キャラクターショーも開催!

**ふわふわキッズ
フェスティバル** in グリーン
アリーナ

2012年
1月2日(月)
1月3日(火)
1月4日(水)

会場:広島グリーンアリーナ(大アリーナ)
主催:おわふわキッズフェスティバル実行委員会
入場:前売500円 当日600円
プレイ券:11枚編1000円、フリーパスポート2500円

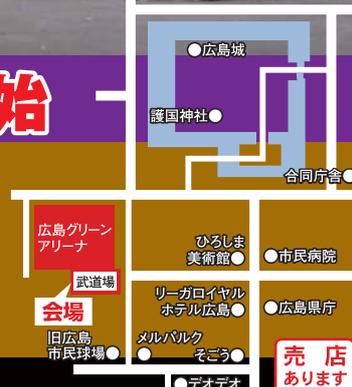
飛んで
遊び

26体
大集合

10月29日(土) 午前10時より前売券販売開始

- 前売券販売所
- RCC文化センター (082) 222-0044
 - アルパーク天満屋 (082) 501-1745
 - 千代田ショッピングセンターサクス (0826) 72-3939
 - 広島県立総合体育館 総合受付 (082) 228-1111
 - チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 416-302)

- デオデオ本店プレイガイド (082) 247-5111
 - ひろしま夢ぶらざ (082) 544-1122
 - 福屋駅前チケットサロン (082) 568-3942
 - フタバ図書メガ (082) 830-0600
- ※ご注意 年末・年始の営業は各販売所によって異なります。



■主催 グリーンアリーナニューイヤーイベント新春神楽実行委員会・中国放送(財団法人広島県教育事業団・RCC文化センター)

■後援 紙屋町・基町回遊性向上連絡協議会、社団法人広島県観光連盟、財団法人広島観光コンベンションビューロー、中心市街地にぎわい創出推進協議会、中国新聞社

■お問い合わせ
TEL (082) 222-0044 (RCC文化センター内)
詳細はホームページで <http://www.sports.pref.hiroshima.jp>
写真/中川戸神楽団「土蜘蛛」



新春神楽

出演団体・演目紹介

2日(月)

天の岩戸 あまのいわと 宮乃木神楽団

これは、古事記・日本書紀を基として天照大神の徳を称え、祭事や神楽の起こりを伝える物語です。太陽である天照大神は、弟・須佐之男命の乱暴に立腹され、天の岩屋へ籠られます。すると、天も地も常闇の世界となり、悪神がはびこり、不安な日々が重なりました。天児屋根命を始め、八百万の神々は相討り天細女命の神楽と手力男命の力によって岩戸は開かれ、大神を迎えると世の中は安泰になったのです。

天神記 てんじんき 東山神楽団

藤原時平をはじめ藤原氏一族のために右大臣の官職を退けられ、筑紫太宰府の権師(ごんのそち)として左遷された藤原道真は、天を恨まず人を恨まず、ただ君恩を偲んで日を送るうちに病氣となり、ついに雷神となってその魂は隠世に入ります。道真の嫡子菅秀才ならびに娘・紅梅姫は罪なく流罪となり、罪の晴れぬまま死に至った父の誠心を朝廷に訴えるため京に上り、時平・忠平・正平の三名に会います。ここで秀才と時平の和歌の掛け合いとなりますが、時平は和歌の道で秀才に及ばずと見るや、一族力を合わせて戦いを挑みます。秀才の身が危なくなったとき、大雷鳴と共に雷神が現れ、三名を討ち滅ぼします。都の者は道真公の怨魂を鎮めるため、北野の天満宮を造営し、紅梅姫が宮仕えをするという物語です。

滝夜叉姫 たきやしやひめ 琴庄神楽団

平安時代も二百年を過ぎる頃、平将門(たいらのまさかど)は、「西の国に「天皇」在れば、自らは東の国の「新皇」となって関東一円を治める。」と宣言します。これによって藤原秀郷(ふじわらのひでさと)・平貞盛(たいらのさだもり)に将門征伐の勅命が下り、将門はこの連合軍に敗れ去っていきました。この戦いで、「天慶(てんげい)の乱」と言われ、わが国の歴史に残ります。神楽の物語は、平将門の娘・五月姫が父の怨念を果たす為、貴船の社に「願(がん)」をかけ、妖術を授かります。五月姫は、その名を滝夜叉姫と改め、下総の国猿島(さしま)の地を根城に多くの手下を従え、朝廷への戦いを謀ります。これを伝え聞いた朝廷は、陰陽師・大宅中将光圀(おおおくのちゆうこう)を将軍として滝夜叉姫討伐軍を下総の国へ向かせます。いよいよ陰陽の術と妖術の激しい戦いになります。滝夜叉姫の復讐の物語です。

紅葉狩 もみじがり 宮乃木神楽団

世に武勇の誉れ高い、信濃の守・中納言平維茂(たいらのこれもち)主従は、帝から信州戸隠山に棲み、世の中に災いを及ぼしている「鬼神」を退治する命令を受け、戸隠山に向かいます。時は秋。山は赤く色付き、紅葉狩をするにはうってつけの景色となっていました。折よく美女たちが酒宴を開いている場面めぐり合ひ、一緒に酒盛りをするように勧められ、維茂一行は酔い潰れてしまいます。すると、美女たちは正体を現し、主従を食い殺そうとします。その時、日頃維茂が信心する八幡大菩薩があらわれ、鬼女達を追い「神剣」を授けます。正気に戻った維茂主従は鬼女との激闘の末に退治し、一帯には平和が戻ってくるという物語です。

土蜘蛛 つちぐも 東山神楽団

大和の国を一望する葛城山に棲み付き、天下を攪乱(かくらん)しようとする土蜘蛛の精魂が、都の守・源頼光(みなもとのらいこう)へ忍び寄ります。時に頼光は病に伏し、頼光の美しい侍女・胡蝶(こちょう)が典薬(てんやく)の守から薬を持ち帰るところを、土蜘蛛の精魂は襲います。そして、胡蝶になりますと、頼光に毒薬を薬と偽って飲ませます。しかし、頼光に正体を見破られ、伝家の宝刀「藤丸(ひざまる)」で一刀浴びた土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ帰ります。頼光は、我が身を救った宝刀「藤丸」を「蜘蛛切丸(くもきりまる)」と改め、四天王にこの刀を授け土蜘蛛退治を命じます。四天王は、葛城山へ向かい、精魂の妖術に立ち向かい、壮絶な戦いの果てに成敗するという物語です。

奥州平泉 おうしゅうひらいずみ 琴庄神楽団

これは、平安時代の終わり、数々の英雄伝を残しながら悲劇の主人公となった源義経の逃亡とその最後を描いた物語です。義経には身に覚えのない政治的流れによって逃亡者となり、すでに最愛の静御前とは別れ、幼き頃を過ごした奥州平泉の藤原秀衡をたよりに道なき道を東へ向かうのでした。途中、加賀国・安宅の関では、頼朝の命を受けた富樫氏の嫌疑を受けますが、弁慶の機転と富樫氏の温情により事無きを得ます。苦難の末、秀衡の元へ辿り着いたのも束の間、秀衡が亡くなると頼朝への使命を果さんと川田兄弟が攻めて来ます。義経一行は、これを撃退したものの秀衡の子・泰衡が動き、遂に義経・弁慶は、その最期を悟るのです。

出演団体プロフィール

みやのきかくらだん
宮乃木神楽団
広島市

平成10年に広島市安佐北区飯室の野原八幡神社を御祭神として結成されました。発足当時は団員4名、太鼓も衣裳も何もないゼロの状態からのスタートでした。阿須那系神楽を中心として伝承するとともに、若い人たちと一緒に「神楽とは何か」を考え学び、儀礼舞、旧舞、新舞の流れを踏まえ、先人たちの育んだ神楽の心意気を学びたいと考えております。

ひがしやまかくらだん
東山神楽団
北広島町

東山神楽団は、昭和34年に地域の若者たちにより結成されましたが、団員の減少などで活動は中断され、昭和48年再び活動が再開されました。近年、若い人たちの入団が増え、新しい演目に取り組み各地のイベントや競演(共演)大会にも出演させていただく機会も増えてきました。まだまだ、若い団員も多く未熟ですが「郷土芸能の継承」と「感動ある神楽」を目指し東山らしい神楽を追求し、団員一同、初心に振り返り努力していきますので、何卒温かいご指導、ご支援宜しくお願いいたします。

きんしょうかくらだん
琴庄神楽団
北広島町

琴庄神楽団は北広島町(旧豊平町)の中心に位置する庄原八幡神社と琴谷点日神社を守護神とし、崇拝してきておりますが、昭和48年神楽同好会が発足し、町内の神楽より、八調子、六調子の神楽を習い奉納してきました。その後、高宮町の神楽団から神楽を習い、昭和60年に琴庄神楽団となりました。いつまでも初心を忘れることなく、皆様の声援を何よりの励みに精進してまいります。

3日(火)

土蜘蛛 つちぐも 中川戸神楽団

大和の国を一望する葛城山に棲みつき、天下を攪乱(かくらん)しようとする土蜘蛛の精魂が、都の守・源頼光(みなもとのらいこう)へ忍び寄ります。時に頼光は病に伏し、頼光の美しい侍女・胡蝶(こちょう)は、典薬(てんやく)の守から薬を持ち帰るところを、土蜘蛛の精魂に襲われ、土蜘蛛の化身は胡蝶になりますと、頼光に毒薬を薬と偽って飲ませます。しかし、頼光に正体を見破られ、伝家の宝刀「藤丸(ひざまる)」で一刀浴びた土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ帰ります。頼光は、我が身を救った宝刀「藤丸」を「蜘蛛切丸(くもきりまる)」と改め、四天王にこの刀を授け土蜘蛛退治を命じます。四天王は、葛城山へ向かい、精魂の妖術に立ち向かい、凄絶な戦いの果てに成敗するという物語です。

倭建命 やまとたけるのみこと 大塚神楽団

人皇12代景光天皇(けいこうてんのう)の皇子、倭建命は、西方にて熊襲(くまそ)の一族を討ち取った後、叔母の祭司より「叢雲の御刀」を授かり東国を鎮圧のため旅立ちます。旅の途中、相模の国で賊に焼き討ちされるところを神剣の威徳をもって難を逃れ、賊を鎮圧し、再び東国へと旅立つという物語です。草を薙ぎ払って難を逃れたことから、以後この剣は「草薙の剣」と改められます。

悪狐伝・中編 あつこでん・ちゆうへん 上河内神楽団

これは、室町時代謡曲「殺生石」を基にしたもので、江戸時代には人形浄瑠璃や歌舞伎にも登場する物語です。全身を金色の毛で覆われ、九本の尾を持つ狐・金毛九尾の狐は、絶世の美女に姿を変え、天竺・唐では皇帝をたぶらかして国を滅ぼし、わが国に渡ってきました。玉藻前の名で天皇の寵愛を受け始めると陰陽師・安部清明安親に正体を見破られます。下野の国・那須野原まで逃れた狐は、再び美しい姫となって十念寺を訪れ、和尚を食い殺すなど悪行の限りを尽くす為、弓の名人三浦之介・上総之介が退治します。「殺生石」前段の物語です。

瀧夜叉姫 たきやしやひめ 中川戸神楽団

天慶の乱によって、父・平将門を討ち取られた五月姫は、その仇を討つため、貴船の神のお告げにより、筑波の山中に籠もり、滝に打たれ祈願を行います。そしてついに妖術を授けると、滝夜叉姫と名を変え、下総国猿島郡磐井へと下り、朝廷に叛いていきます。一方、都では大宅中将光圀、平貞盛、藤原秀郷が五月姫捕獲へと貴船神社へと向かいますが、既に五月姫の姿はなく、光圀の陰陽の霊術によって滝夜叉となり、朝廷へ反旗を翻していることを知ると、姫征伐の勅命を授かり、下総国へとむかいます。貞盛、秀郷は滝夜叉の妖術に悩まされますが、光圀の陰陽の霊術により、その妖術は次第に解かれ、邪心を払われ、滝夜叉は光圀に諭され、山へと籠もり、その後は一族の御霊を弔い暮らしているという物語です。

道成寺 どうじょうじ 大塚神楽団

安珍は、少年の頃から山伏姿で仏道を求め、熊野詣の旅を繰り返していました。そして、いつもの茶屋で休むことから茶屋の幼い娘・清姫と親しくなり「末は夫婦になろう」という「その場の話し」をしたのでした。安珍はいつかその話を忘れ、清姫は年を重ねる毎に恋焦がれるようになっていったのです。少女は、年頃の娘となり安珍へ結婚を迫りますが、修行の身の安珍は夜の道を駆け荒れる川を渡り道成寺へ逃げ込みます。清姫は、心を鬼として安珍を追い求め、その終わりに燃え上がる情愛を炎に変えて、釣鐘に隠れた安珍を焼き殺すという物語です。その後、道成寺の絵説き説法の中にこの物語が語られるようになり、その終わりに「西方極楽(さいほうごくらく)・西の彼岸へ極楽浄土がある」という教えに「妻宝(さいぼう)極楽・日々妻を宝に暮らしてこそ極楽へ導かれる」と加えられます。

紅葉狩 もみじがり 上河内神楽団

時は平安中期、武勇の誉れ高い平維茂主従が信州(現在の長野県)戸隠山に入ると、紅葉狩の酒宴をひらいている美しい女性に出会います。しかしこの美女こそ、戸隠山に年古く住まいし、近隣の庶民に仇をなす鬼女だったので。鬼女たちは平維茂主従を巧みに宴に誘い、酒に酔わせ、鬼女の正体を現して命を狙いますが、その時日ごろから信心する神が現れ、維茂に正体を告げ神剣を与えます。正気に戻った維茂は神剣をもって見事鬼女を成敗するという物語です。

なかかわどかくらだん
中川戸神楽団
北広島町

中川戸神楽団は、明治8年に吉藤八幡神社の氏子達により結成され、当時は六調子による神楽を舞っていました。戦後は、高田舞と称し、八調子による神楽を導入して神楽の伝承保存に努めてまいりました。最近ではオリジナル神楽も発表し、一生懸命頑張っています。これからも「感動ある神楽」を目指し、団員一同頑張る所存ですので、何卒温かいご支援とご指導の程よろしくお願いたします。

おおつかかくらだん
大塚神楽団
北広島町

発足は明確ではないものの、明治30年代頃と思われる。その起源は、島根県石見町矢上の「矢上神楽」と伝えられています。旧舞として受け継がれてきたが、昭和20年代後半に旧千代田町より、新舞が伝えられその間新旧両舞を伝承していました。近年になり若い団員が気分を新たに、伝統を大切に、新舞を習得し、地域の皆さまに喜んでいただける神楽をと日々練習に励んでいます。

うえこうちかくらだん
上河内神楽団
安芸高田市

上河内神楽団は明治初期より奉納活動を始め、昭和30年代までは、本村神楽団と称し、その後地名を名付け現在に至っています。新しい技や演出、演目を取り入れながら伝統的な神楽も大切にしていきたいと、日々努力しています。特に若い人を中心に、今年も頑張りますので、皆様方の応援、よろしくお願申し上げます。